

「花祭り」と「聖地・佐渡ヶ島」

平成30年3月24日(土)は、大町校下の人間にとって忘れ得ない、脳裏に刻まなければならぬ記念日となりました。ついに「魚津市立大町小学校」の開校式を迎えました。明治6(1873)年に「魚津一番小学校」として開校し、144年という長き歴史に幕を降ろしたのです。私の在校時(昭和60年代前半)、全校生徒500名程の子供達があり、団塊の世代が在校時には1500名もの生徒児童で、所狭しとひしめき合う超マンモス校だったとも聞き及んでいます。それが、ご多分に漏れず魚津市も、少子高齢化という現代社会の波を受け、閉校時の全校児童数は、なんと58名(男子28名、女子30名)でした。同日、108年の歴史に幕を閉じた村木小学校や、上野方小学校と本江小学校の4校が合併し、今月から新小学校・「よつば小学校」へ統合されます。母校が無くなる淋しさはありますが、始めあれば終わりありというのが世の常です。地域の人で、その地域を再構築していかなければいけない大転換期とも言えます。今後より良い社会を皆様と一緒に考えていきたいと思います。

●【4月8日は『花祭り』】

さて、真成寺でも新たな試みとして、4月8日の『花祭り』を盛大かつ、有意義な行事に育てるべく粉骨碎身の思いで臨みたいと思います。

4月8日については先月号で特集させて頂きましたが、その後に多くのお問い合わせ頂きました。「花祭り」と「お釈迦様の誕生日」が繋がっておられない方も沢山おられ、まだまだ浸透していない行事なんだなあ...と改めて布教伝導の思いに火が付きました。

というのも、2月14日は「バレンタインデー」▼聖バレンティヌスが守護聖人の行事。10月31日は「ハロウィン」▼ケルト人の祝日。ケルト暦の大晦日に当たり、キリスト教の万聖節の前日。12月25日「クリスマス」▼イエス・キリストの誕生日とされている日...。

海外から日本に入ってきた聖日は全国各地で持ち上がっているのに、なぜ仏教は盛り上がりがない？逆に考えれば、それだけ日本人に仏教が浸透していて、お釈迦様を面白おかしい行事にするのは気が引ける...。それだけ大切に思われているからなのか？そうとも考えられます。にしても、4月8日「花祭り」▼仏教の開祖・お釈迦様の誕生日が盛り上がりがないのは、良いことではありません。

今年の4月8日は日曜日に当たります。お出かけしやすい気候でもありますし、今まで一度も足を運んだことの無い方も、どうぞ真成寺にお出かけ下さいませ。フラッと気軽に足を運んで頂ける様な行事に、年々成長させていきたいと思っておりますので乞うご期待下さい。



日時：4月8日 9時～12時
日程：9時半～ 上映会

「アニメブツダ2(手塚治虫)」

11時～ 法話(副住職)
11時半～ 法要
12時 昼食・解散

★境内では「甘茶の振る舞い」や「献花」を随時行っています。どなたでもご参加、お参りいただけます。皆様の御来寺を、心よりお待ち申し上げております。

仏教とは？仏教の開祖お釈迦様とは？天上天下唯我独尊とは？

これをきっかけに『お釈迦様の誕生日・花祭り』を覚えて下されば幸いです。

お子様やお孫様をお連れの上、皆様ぜひ集って下さい。皆様と一緒に盛大に御祝いしましょう。

●【日本一大きな日蓮聖人の銅像】

来たる4月23日、佐渡ヶ島にて『日蓮聖人銅像建立15周年法要』が開催されます。ご存じでしょうか？真成寺にも日蓮聖人の銅像が聳(そび)え立っておりますが、この佐渡ヶ島の銅像こそが「日本一大きな日蓮聖人銅像」となることを、高さ13.3メートル(十台座1.3メートル)で総高26.6メートルの銅像となります。土地の広さは約280平方メートルで、両津港に面する山の中腹(両津港から車で15分ほどの場所)に建立されました。土地は、ある篤信の方に寄進されたものでした。寄進して下さった方は「法華経の布教、そして日蓮聖人のためにこの土地を活用して頂きたい」という信仰心からでした。

この日本一大きな日蓮聖人銅像が建立されて15年の節目の大法要が4月23日(月)に開催されるというわけです。そんな記念すべき大会の記念法話に、わたくし谷川寛敬が抜擢されました。この機会に、日本一大きな佐渡ヶ島の銅像さんを一緒に参拝しませんか？ご希望の方は、真成寺へお問い合わせください。さて、日蓮宗の私達にとって佐渡は、日蓮聖人が唯一足を踏み入れられた場所として、佐渡について知らなければならぬ伝説がいくつも眠っている聖地とも言えます。

●【日蓮聖人の御生涯・略歴】

ここで日蓮聖人の御生涯を年代順に振り返ってみましょう。

1222(貞応元年)▼2月16日に、現千葉県鴨川市の小湊にて「善日庵(ぜんにちあん)」として誕生。1233年▼

11歳の時、清澄寺の道善房に入門。1238年▼16歳で出家(運長(れんちやう)の名を与えられる。1245年▼24歳の時、比叡山・定光院に住す。その後、薬師寺や仁和寺、高野山や天王寺、そして東寺などへの遊学を経る。1253年▼32歳の時に清澄寺に帰山する。

同年4月28日朝、日の出に向かい「南無妙法蓮華経」とお題目を初めてお唱えになる。これを「立教開宗(りっけうかいしゅう)」という。この日の正午に清澄寺の持仏堂で初説法を行い「日蓮」に改名。それ以降鎌倉を中心に辻説法で布教活動。1260年▼「立正安国論(りっしやうあんこくろん)」を著し、前執権で幕府最高実力者の北条時頼に送る。安国論建白の40日後、

他宗の僧ら数千人により松葉ヶ谷の草庵を焼き討ちされるも難を逃れる「松葉ヶ谷（まつばがや）の法難」。1261年▼幕府によって現在の静岡県伊東市へ配流「伊豆法難」。1264年▼安房国小松原（現・千葉県鴨川市）で念仏信仰者の地頭東条景信（とうじょうかげのぶ）に襲撃され、左腕と額に負傷し、門下の工藤吉隆と鏡忍房を亡くす。「小松原法難（まつばらほうなん）」。1271（文永8）年▼7月、極楽寺良観（りょうかん）との祈雨対決を行い日蓮聖人に軍配が上がる。これを恨みに思った良観と念阿弥陀仏等が連名で幕府に日蓮聖人を訴える。平頼綱により幕府や諸宗を批判したとして佐渡への流罪という名目で捕らえられた。しかし腰越龍ノ口刑場（現・神奈川県藤沢市片瀬、龍口寺）にて処刑が執行されるも、処刑を免れる。「龍口法難（りゅうこうほうなん）」。

●【佐渡ヶ島への流罪】

龍口法難後しばらくの間、幕府は大聖人への処遇を決められず、約1カ月間、大聖人は相模国の依智（現・神奈川県厚木市北部）にある本間六郎左衛門重連（佐渡国の守護代）の館に留め置かれた。その間、放火や殺人の罪が門下に着せられるなど、さまざまな弾圧が画策されましたが結局、佐渡流罪と決まり、1271（文永8）年▼10月10日に依智を出発し、11月1日に佐渡の塚原の墓地にある荒れ果てた三味堂（葬送用の堂）に入りました。厳寒の気候に加えて、衣類や食料も乏しい中、佐渡の念仏者などから命を狙われるという厳しい

状況に置かれたのです。弾圧は、鎌倉の門下にも及び、土牢に入れられたり、追放、所領没収などの処分を受けたりします。そして、多数の門下が、臆病と保身から、大聖人の仏法に疑いを起こして退転してしまいました。

1272（文永9）年▼1月16日、17日には、佐渡だけでなく北陸・信越などから諸宗の僧ら数百人が集まり、大聖人を亡きものにしようとした。本間重連に制止され、法論で対決することになりました。大聖人は各宗の邪義をことごとく論破されました。「塚原問答（つかはらもんどう）」。

2月には北条一門の内乱が起こり、鎌倉と京都で戦闘が行われました（二月騒動、北条時輔の乱）。大聖人が竜の口の法難の際に予言された自界叛逆難が、わずか150日後に現実になったのです。

同年初夏、大聖人の配所は、塚原から一谷に移されました。

そんな中、佐渡の地でも、阿仏房（あぶつぼう・千日尼（せんにちあま）夫妻をはじめ、大聖人に帰依する人々が現れました。

文永9年2月に著された「開目抄（かいもくしょう）」は、日蓮大聖人こそが法華経に予言された通りに実践された末法の「法華経の行者」であり、末法の衆生を救う主師親の三徳を具えられた末法の御本仏であることを明かされています。

1273（文永10）年▼4月に著された「観心本尊抄（かんじんほんぞんしょう）」は、末法の衆生が成仏のために受持すべき南無妙法蓮華経の本尊について説き明かされています。

1274（文永11）年▼2月に赦免さ

れ、3月に佐渡を発つて鎌倉へ帰られました。

●【身延山に入山】

3度目の諫曉も幕府に用いられなかった為鎌倉を離れ甲斐国（山梨県）波木井郷の身延山に入られました。身延の地は大聖人の門下となった波木井六郎実長（はきいろうろうさねなが）が地頭として治めており、歓待で迎え入れられました。1274（文永12）年▼5月に身延に入られました。ただし、身延入山は隠棲（俗世間から離れて静かに住むこと）などではなく、「撰時抄（せんじしょう）」や「報恩抄（ほうおんしょう）」をはじめ、数多くの御書を執筆なされ、仏法の重要な法門を説き示されたり、法華経の講義などを通して、未来の広布を担う人材の育成に全力を注がれました。また、各地の男性・女性の在家信徒に対し、数多くの御消息（お手紙）を書き送って励まされています。一人ひとりが強盛な信心を貫き、懇切に指導・激励を続けられました。特に、三大秘法（本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目）も明らかにされました。1282（弘安5）年▼10月13日の午前8時頃、池上宗仲邸（現・池上本門寺）にて御入滅（お亡くなりになる）61歳の御生涯を閉じられたわけです。

●【佐渡ヶ島とは？】

当時の佐渡ヶ島は「流刑の地」でした。佐渡（配流（島流し））されて戻ってきた者は1人もいませんでした。第84代・順徳天皇（じゅんとくてんのう）や、御能の大成者である世阿弥（ぜあみ＝観世元遣）らも佐渡ヶ島へ配流され、赦免される事はなく、その生涯を閉じられておられます。事実上、日蓮

聖人ただ1人のみ佐渡に配流され赦免せられた聖人でした。

日蓮聖人が佐渡ヶ島に配流され、最初の半年を過ごした場所が「塚原（つかはら）」でした。ここ塚原の地は、元々死体置き場だったのです。そんな環境の中、寒さもしのげず、食べ物も与えられないのですから、生きては帰れないかもしれない。しかし日蓮聖人は、何があっても『法華経を正しく広める』という使命を果たさなければならぬと。そのような中、ここ塚原で『開目抄』、そして一谷（いちのさき）で『観心本尊抄』という教義の要となる書を記されたのです。『開目抄』は、いわば法華経の正しい心得方を説いたもの。『観心本尊抄』には、何を「本尊」として崇め法華経指導に励めばよいのか、ということが記されています。

これらを総合し分かりやすく言えば、日蓮聖人は「人間らしく生きてくれ」とおっしゃっているのです。「人間らしく」というのは、周りに生かされていると気づき、感謝し、慈悲の精神を持つこと。そういういたる人の生き方を日蓮聖人は伝えたいのだのではないかと思うわけです。

聖地「佐渡ヶ島」での銅像建立15周年記念の日に、わたし谷川寛敬に法話を一任された栄誉を真摯に受け止め、日蓮聖人の大いなる思いと魂魄が留まっている聖地佐渡で、熱弁を奮う事を皆様にお誓い申し上げ、筆を置きたいと思います。

合掌 副住職 谷川寛敬

『日蓮聖人銅像』

建立十五周年法要』

参拝者募集

日時…4月23日 19時～20時半

場所…佐渡ヶ島 日蓮聖人銅像前

★参拝ご希望の方は、真成寺へお問い合わせ下さい。
☎0765・22・2268



日本一大きな日蓮聖人大銅像の前で
建立15周年を記念して、副住職が
御法話を行います。参拝ご希望の方
は、お気軽にお問い合わせ下さい。



◎毎月一日祈禱会きとうえ

・午前五時から

◎水子供養会

・毎月十三日 午後一時半より

◎唱題行脚



※今月は立教開宗会の為、日程の変更をいたします。お間違えないように！

二十八日 ↓ 二十七日(金)

・午後一時半より

先月の参加者

副住職・高田富美子・谷川まり子・

谷川知世

ご招待



音の華

ピアノ発表会

とき…4月29日(日)

12時30分開演

場所…北日本新聞社ホール

お誘い合わせのうえ、お越しください。
お待ちしております♪